

ルーブリック評価表（看護研究Ⅱ：後期）

評価項目／評価基準		(優) 8-10点 評価基準を十分に達成	(良) 7点 評価基準をおおむね達成	(可) 6点 評価基準達成には 努力が必要	(不可) 3点 評価基準を達成するには 大きな課題がある
研究データの活用 (20)	データ収集 (10)	研究目的や方法に合った適切なデータを収集できる。誰(何)を対象とするのか、定義を明確にし、範囲も適切に設定できる。	研究目的や方法に合った資料やデータを収集できる。	研究目的や方法に合ったデータを、指導を受けて収集できる。	研究目的や方法に合ったデータ収集ができない。
	分析 (10)	考察に必要な分析結果をまとめ、研究目的に沿ってデータの分析を行い、分かりやすく正確に示すことができる。	考察に必要な分析結果をまとめ、概ね研究目的に沿って示すことができる。	分析内容は示しているが、指導を何度も受けて、研究目的に沿った分析を行うことができる。	研究目的に沿って、分析を行い、まとめられていない。
論文の妥当性 (30)	結果 (10)	結果を正確にまとめている。図、表、グラフが等用いられている場合は、分かりやすく作成・配置されている。	必要とされる資料やデータを得て、記述できている。結果を正確にまとめて示すことができる。	結果が整理されている。指導を受けて、正確な記述ができる。	必要な結果が整理されず、適切にまとめられていない。
	考察 (10)	結果を客観的に考察し、論理的に述べることができる。必要十分な文献を用いて考察を深めている。	結果を客観的に考察し、文献を適切に引用して、論理的に述べるができる。	結果から考察し、述べているが、飛躍している内容になっている。指導を受けて、考察をまとめることができる。	結果に基づいた、客観的な考察でない。
	結論 (10)	一貫性をもって、結論を記述することができる。	おおむね一貫性をもって結論を記述できる。	指導を受けて、一貫性のある結論としての記述ができる。	一貫性がない結論の内容になっている。
研究の意義 (10)	看護実践への貢献	研究成果を看護実践へつなげる検討を行い、その考えは根拠性をもって述べるができる。	研究成果を看護実践につなげる検討を行っているが、おおむね根拠性ある内容にまとめることができる。	研究成果を看護実践につなげる検討を行うことはできるが、考えをまとめることに努力を要す。	研究成果を看護に繋げる検討はできていない。
論文の体裁 (10)	実施要項に沿って記載	要項に基づいて、規定を守り、体裁を整えることができる。	要項に基づいて、論文の体裁をおおむね整えることができる。	要項に基づいた体裁について、指導を受けて整えることができる。	要項に沿った体裁を整えることができない。
研究に取り組む姿勢 (20)	主体性 (10)	積極的かつ意欲的に研究を進めることができる。	自主性をもって研究を進めることができる。	自主的ではないが、研究指導を受けることができる。	指導を十分に受けていない。
	研究のプロセスの理解 (10)	論文作成のプロセスについて理解でき、同様な研究であれば助言なくできる。	論文作成のプロセスについて取り組みながら、おおむね理解できる。	論文作成のプロセスについて、指導を何度も受けて、理解できる。	論文作成のプロセスが理解できない。
提出 (10)	論文の提出	検討・修正を十分に行い、期限内に提出できる。(10)			期限内に提出できない。(0)
総合計 (満点 100 点)					点